

## 日本・日本文化・日本語のGMAISによる2大モデルの研究

沢 恒雄\* 遊工学研究所(技術士)\*\*

### 1. トリレンマによる人類の存亡危機

人類は、自らの進化の過程で存亡に関わる大きな変極点にある。産業革命後の工業化社会は、過去に比して飛躍的な成果を得たが同時に膨大な人口増加と人類生存に直接関わる環境破壊を招いた。今後更にこの傾向は続く。20世紀の工業社会の仕組みは、大量生産、大量物流、大量消費と大量廃棄のオープン・システムで、人類が生息する自然環境はその復元力と回復力を喪失した。糸川英夫等の学者・科学者・技術者等は、現状維持では人類滅亡の危機の警告をしている。今後の世界は、環境破壊による人類への悪影響、地球・消費による資源枯渇と人口増加による食糧難等の資源不足に満ちた世紀となる。人類存続には、自然環境の劣化具合を観測し、その修復と劣化傾向を抑制しうる環境経営が急務である。

総括すると環境・社会・経済の絶望的なトリレンマの状態である。それに対応した包括的な解決策はない。トリレンマの緩解の方略として人口増加率と工業化率の低減を提唱してきた。(沢恒雄(1996~2010))。具体的には、生物・人類と言語・文化の存続モデルである。知識社会でこの資産・資源を利活用して新たな価値観を導出し、富の配分を行い政治的、経済的な安定性を実現することだ。

### 2. トリレンマ緩解法

日本は、本質的にそれらの実現に近い伝統と文化を有する文化力と経済力、即ち最強で唯一の文化経済国といえる。日本の義務と役割は、文化経済構想による情報バンクを構築し、COE(Center of Excellence)として人類存続の為の情報発信により、地球経営のあり方を世界に示し、トリレンマ緩解の重要性を諸国に啓蒙し、認識させるために先導的な役割を担うべきだ。

A Study of GMAIS(Global Model Architecture  
Information System)

Sawa Tsuneo\* Yuukougaku Institute\*\*

### 3. 具体的な方略

文化と言語を温存し、廉価で情報発信をすれば、識字率の向上につながる。結果として異文化の相互理解と人口抑制と、工業化進度の制御の必要性、さらに富の配分の重要さが理解できるようになる。

環境問題を意識した日常の生活が環境問題解決へむけて変化する。敗戦後70年間のアメリカ研究から脱してこの間に忘れてしまった日本研究をして、連帯を地球の全地域にもとめ、人類が「身の丈の成長と限界」に気づき、異なる文化を温存、理解、統合化を指向する。そのために日本は、2大モデルを世界にCOEとして情報発信をする。その結果として異文化の相互理解と人口抑制、工業化進度の制御の必要性を認識して、個と集が生きる上での底なしの沼のような欲望の抑制で行動する意識改革を最終目標とした2つのモデルが実現して初めて可能となる。

その具体的な方法論も「日本の知財」をICT化したGMAISとして提唱した。諸外国に伝えるべきは、匠の精神(もの創り)、人を育てる歴史と現実(人創り)、武士道の精神(心創り)、集団の窮乏した環境での互助の社会倫理観(思想創り)、自然に対する恐れ・崇拜と共存(生きる髓創り)、万世一系の伝統と日本精神(心柱創り)などである。

### 4. 研究推進上の考慮点

広大な課題研究に際して、研究対象の絞り込みが重要な前提となる。すなわち、

研究範囲の広大性を考慮し対応を顧慮する。

複雑性と多様・多重性への対応を熟慮する。

「個と集」存続の原理・原則(国・組織・個人と文化・文明の共有概念)を再認識する方略を策定する。

詳細は、発表時に行う。

第1図表に目的・研究方法等を総括した。

**参考文献：** 沢恒雄(1997),知識時代の経営情報管理論,共著,白桃書房,東京都,pp.231-261. 築法の研究,愛知学泉大学紀要, 7号 PP. 45-66  
 沢恒雄(1999),知識社会における知的資産創製と管理の研究,愛知学泉大学紀要第1号 PP.67 95. 沢恒雄(2006),GMAIS におけるモデル・シナリオベースの研究,愛知学泉大学紀要第9号 PP.73 - 86  
 沢恒雄(2001),文化経済立国論(構想編),愛知学泉大学紀要, 第4号 PP.45 67. 沢恒雄(2010/5), GMAIS による環境・社会・経済トリレンマ緩解論,情報知識学会  
 沢恒雄(2004),GMAIS による文化言語温存モデル構

<b>第1図表 研究構想と概念 日本・日本文化・日本語教育による知財戦略の研究                      国際日本モデルによるトリレンマ緩解方略</b>		
A. 人類の永遠的課題	21世紀には,人類は不在([人類生存の法則: 糸川英夫(1995)]) 仮説【人口を $x$ とすると,2000年時点で $dx/dt =$ (減),非線形問題で解なし】 解決のヒント 緩解【 の低減化法 人口増加率・経済成長率の低減化:沢恒雄(2010)】	先行研究の研究項目
B. 課題を緩解する必須の2大モデル	環境・社会・経済のトリレンマ緩解戦略 博徒経済と環境・経済の物々交換(トリレンマの要素の相互置き換論は解決無視),グローバリズムとナショナリズムの相克(資源覇権国家や言語帝国主義で中世に逆戻りの現実を是正する政策・施策) <b>生物・人類温存モデル+ 言語・文化温存モデル 国際日本モデルによるトリレンマ緩解の方略としてモデル構築。</b> 良質な日本文化と日本語・日本文化(足るを知る・温和な共存協働社会)啓蒙・定着を目論み,COEとして情報発信する。	提唱済み
C. 2大モデルの理論的背景	グローバリゼーション(非線形化)対応の政策・外交(戦争と経済の形態が変容して民主主義と自由主義経済が爛熟した混沌期) 世界的なCOEの実現と2大モデル実現・発信による課題の低減化 COE 連動の Public Diplomacy で日本の先人の良質な遺産の知財発信 国際日本・国際開発・開発経済・経営日本語教育システム(GMAPIA)の知的資源資材管理法 【2領域の基本概念をモデル化+政策化+COE(Center of Excellence)化】	: 研究中 : 研究対象
D. 緩解策の方法論	日本・日本語による知財戦略構想を纏めて世界へ発信 GMAIS+PIACSの統合化システム: 集団意思決定・合意形成・知識獲得支援 統合化辞書体系: 知財戦略の基盤 シナリオ,モデル,ケース,ナリッジ,データ等の情報バンクが知財戦略の基盤 実践知獲得&知財管理システム=GMAPIA(経営日本語教育システム)提唱済み	研究対象, : 提唱済み
E. 具体的な実践法と概念を総括	熟化した社会・経済・文化の先進大国の責務 日本の情報発信【日本・日本文化・日本語】で異文化理解と容認から安寧空間 先人と現在の日本の知的資源・資産の知財化・政策化 ICTによるCOE機能で啓蒙;身の丈:匠(もの創り)+武士道+穏健な欲望・価値観・民意+「足るを知る」定着させうる適正な義務教育等である。研究成果を踏まえ,東南アジア地区で経営日本語教育・ビジネス日本語教育の教育実践を通じて啓蒙活動を実践する。	: 研究 中で見直しをする